

福井県友好大使レポート

2011年9月

氏名：ミゲル・エルネスト・マルティネス・ポゾ さん

出身：キューバ

委嘱：平成23年3月

東日本大地震から5ヶ月以上経ちましたが、世界中の人々が日本の復興を心配しています。原子力発電所がある福島県に10メートルの津波が襲い、大損害になりましたが、波のように速く、世界中から思いやりが日本に送り届けられ、世界は日本の復興のために一致団結しました。福井県には直接的な被害はありませんでしたが、迅速に被害地の支援をはじめ、食料や水などの必要な物質を提供しました。

私は、文部科学省の奨学金で留学のために福井に5年前に来ました。ハバナにある日本大使館から聞いていたことは、「福井は寒いけど、カニが美味しい」だけでした。しかし、福井に到着した直後から福井県民の温かいホスピタリティを感じました。観光産業があまり盛んでなく、外国人がまだ少ない田舎のこの県ではありますが、日本人ではない私にとっても、とても暮らしやすいところでした。福井ではたくさんの友達ができまして、忘れることができない貴重な時間を過ごしました。生まれて初めて雪を見たり、新鮮でおいしい生の魚を食べました。また、友達たちと一緒に桜の下で素晴らしい時間を過ごしました。

キューバに帰ってから、今年日本へ出発する文部科学省の奨学金留学生の送別会に招待されました。他の元留学生と共に新しい留学生と交流し、福井県の

ことを紹介しました。時間は限られていましたが、福井のような小さい県が全国的にも生活水準の高い位置にあることに、皆さんは驚いていました。鯖江の眼鏡産業や朝倉氏遺跡、永平寺、東尋坊、恐竜博物館、丸岡城、若狭町、そして福井県民が誇る「越前ガ二と魚」などについて話しました。

最近をよく、日本での経験、特に福井での経験を家族や友達とシェアしています。日本人の友達ともよく連絡を取っており、また福井を訪れたいと思っています。

